

**場所・面積** 鹿児島県 大島郡 龍郷町、1.26ha

**管理目的** 稲作文化および水田環境の継続、保全。

**サイト概要** 奄美大島龍郷町の秋名・幾里集落、大勝集落に位置する水田。本地域は奄美群島で数少ない水田が残る地域である。

申請者である一般社団法人 奄美稲作保存会は、水田において稲の自然栽培を行っており、水田周辺には水生生物や渡り鳥等が多数生息する。

田植え体験、稲刈り体験や生きもの観察会を行っている。



**土地利用の変遷** 薩摩藩政下における稲作から黍作への転換等により、本地域は奄美群島で数少ない水田が残る地域となっている。申請区域は元々は水田や畑であったが、耕作者の高齢化等により営農が困難となり、耕作放棄地となっていた。2016年から奄美稲作保存会が耕作放棄地を解消して水田として管理している。

**サイト周辺の環境** 奄美大島龍郷町の秋名・幾里集落、大勝集落に位置する。周辺は、スダジイなどを中心とする亜熱帯照葉樹林からなる山野が広がり、谷地には田畑が広がっている。ただし、近年では田畑の多くは耕作放棄されている。

**アピールポイント** 奄美群島で数少ない水田が残る地域であり、自然栽培により良好な水田環境を維持していることで、水生生物や渡り鳥等の保全に貢献している。

奄美大島在来の米の栽培を復活させており、稲の品種の保存に貢献している。

奄美大島で行われる神事（国指定重要無形民俗文化財ショチヨガマ（秋名アラセツ行事））で用いる稲穂を提供しており、奄美大島の伝統文化の保存に貢献している。

田植え体験、稲刈り体験や生きもの観察会を行っており、郷土学習や環境学習の場になっている。

## 生物多様性の価値

## 価値（1）公的機関等によって、生物多様性保全上の重要性が既に認められている場

## 【選定されている制度名】

環境省 重要里地里山「奄美大島・加計呂麻島・請島・与路島の里地里山」

## 【選定理由や内容】

選定理由は以下のとおり。

- 奄美地域は、それぞれの島で豊かな自然環境を基盤とした文化や暮らしが成立していることが特徴であり、各島内には周囲の海や山と一体となった生活を営んできた集落が点在している。集落を中心として前面の海で魚介類を採取し、背後の山野で田畑の開墾、薪や材木の伐採をするなどし、里地里山・里海のような自然環境が維持されてきた。こうした自然は奄美地域の生物多様性を高める要因の一つとなっており、島内には動植物ともに固有種・固有亜種が多く生育・生息している。また、植物では、南方系と北方系の種が混在して豊富な植物相を有しており、多くの南方系の種の分布北限となっている。



（再掲） 写真の撮影年月：2018年5月  
写真の説明：秋名・幾里集落と周辺の里地里山の様子

## 生物多様性の価値

## 価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

## 【場の概況】

奄美大島龍郷町の秋名・幾里集落、大勝集落に位置する水田。奄美群島で数少ない水田が残る地域。

申請者である一般社団法人 奄美稲作保存会は、水田において稲の自然栽培を行っており、除草剤など化学的なものを使っていないので良好な水田環境に水田雑草群落が発達し、渡り鳥、両生類、水生甲虫類、水生カメムシ類、その他生き物の生息地になっている。

## 【主な植生】

水田雑草群落

## 【確認された主な動植物】

地元の自然保護団体と共同でサイトの観察会を実施し、以下が確認された。

（植物） オモダカ、ミゾカクシ、ホシクサなど

（鳥類） サシバなど

（両生類） シリケンイモリ、ヌマガエル、ヒメアマガエル、ハロウエルアマガエル、オットンガエル（声のみ）

（水生甲虫類） ヒメガムシ、マメゲンゴロウなど

（水生カメムシ類） マルミズムシ、ヒメコマツモムシなど

（その他） オキナワイナゴモドキ、コキベリアオゴミムシ、ナガマルコガネグモ、イチモンジセセリ、キチョウ、ヒメトンボ、オオシオカラトンボなど

今後、環境省奄美群島国立公園管理事務所や専門家と連携して生物調査を行い、記録を蓄積していく。



写真の撮影年月：2022年4月  
写真の説明：田植えが進む水田



写真の撮影年月： 2022年4月  
写真の説明：田植え体験

## 生物多様性の価値

## 価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

## 【場の概況】

奄美大島龍郷町の秋名・幾里集落、大勝集落に位置する水田。奄美群島で数少ない水田が残る地域。申請者である一般社団法人 奄美稲作保存会は、水田において稲の自然栽培を行っており、水田周辺には水生生物や渡り鳥等が多数生息する。

供給サービス：お米や稲わらを供給している。

調整サービス：自然栽培で水質保全に貢献している。

文化的サービス：地域の伝統文化の保存に貢献しているとともに、郷土学習や環境学習の場として活用されている。

## 【主な植生】

水田雑草群落

## 【確認された主な動植物】

地元の自然保護団体と共同でサイトの観察会を実施し、以下が確認された。

（植物） オモダカ、ミゾカクシ、ホシクサなど

（鳥類） サシバなど

（両生類） シリケンイモリ、ヌマガエル、ヒメアマガエル、ハロウエルアマガエル、オットンガエル（声のみ）

（水生甲虫類） ヒメガムシ、マメゲンゴロウなど

（水生カメムシ類） マルミズムシ、ヒメコマツモムシなど

（その他） オキナワイナゴモドキ、コキベリアオゴミムシ、ナガマルコガネグモ、イチモンジセセリ、キチョウ、ヒメトンボ、オオシオカラトンボなど

今後、環境省奄美群島国立公園管理事務所や専門家と連携して生物調査を行い、記録を蓄積していく。



写真の撮影年月：2022年5月

写真の説明：水田で育つ稲

## 生物多様性の価値

## 価値（5）伝統工芸や伝統行事といった地域の伝統文化のために活用されている自然資源の供給の場

## 【場の概況】

奄美大島で行われる神事（国指定重要無形民俗文化財平瀬マンカイ ショチョガマ（秋名アラセツ行事））で用いる稲わらを2022年から継続的に提供しており、奄美大島の伝統文化の保存に貢献している。

## 【伝統文化等の名称】

国指定重要無形民俗文化財ショチョガマ（秋名アラセツ行事）

## 【活用している自然資源】

区域内で生産している稲わら。



写真の撮影年月：2018年9月

写真の説明：ショチョガマ（秋名アラセツ行事）



写真の撮影年月：2018年9月

写真の説明：平瀬マンカイ（秋名アラセツ行事）

## 生物多様性の価値

## 価値(8) 越冬、休息、繁殖、採餌、移動(渡り)など、地域の動物の生活史にとって重要な場

## 【場の概況】

奄美大島龍郷町の秋名・幾里集落、大勝集落に位置する水田。奄美群島で数少ない水田が残る地域。

申請者である一般社団法人 奄美稲作保存会は、水田において稲の自然栽培を行っており、除草剤など化学手的なものを使っていないので良好な水田環境に水田雑草群落が成立し、渡り鳥の中継地、越冬地となっている。

## 【対象となる動物種】

地元の自然保護団体と共同でサイトの観察会を実施し、サシバなど鳥類3種が確認された。

## 【動物が利用している生活史】

- ・サシバ：渡り（主に越冬地、中継地）
- ・その他2種：渡り（主に中継地）



(再掲) 写真の撮影年月：2018年5月  
写真の説明：秋名・幾里集落と周辺の里地里山の様子

## サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容	モニタリング計画の内容
<p><b>【目的】</b> 稲作文化および水田環境の継続、保全</p> <p><b>【管理計画の内容】</b> 自然栽培によるお米作りを行い、水生生物等や渡り鳥の生息に適した水田環境を維持する。</p> <p>今後、公益社団法人日本自然保護協会の協力のもと、具体的な管理計画を策定・実施していく（既に調整を始めている）</p>	<p><b>【モニタリング対象】</b> 動植物（鳥類、両生類、水生昆虫類、植物等）</p> <p><b>【モニタリング場所】</b> サイト全域</p> <p><b>【モニタリング手法】</b> 生息する動植物を目視確認・記録する。 ※奄美市等で実施中の環境省のモニタリング1000の調査手法を参考にする。</p> <p><b>【実施時期及び頻度】</b> 春夏秋冬の年4回程度 ※2023年8月中旬に稲刈りを行う際に、モニタリング調査を試行する予定。</p> <p><b>【実施体制】</b> 奄美稲作保存会の主催により一般参加を募る。 モニタリングに当たっては、株式会社奄美自然環境研究センターの協力を得る。</p>